

# 開智創造

令和6年  
5月24日（金）

学校教育目標：よく学び 未来を見つめ さわやかにたくましく生きる生徒の育成

## 生徒の健康チェック順調に

保健事業団や学校医の先生方による検診が昨年度から予定どおり行えるようになり、今年度も順調に進んでいます。先週は1、3年生の血液検査と心電図検査、今週は全校の眼科検診が行われました。勉強や部活動等に力を注ぐためにも、心身の調子を整えることは大事です。良くないところは早期に発見してもらい、早目の手当を！

「今年になってコロナやインフルエンザの検査で3回も血を抜かれて、今回でもう4回目ですよ～。校長先生勘弁してくださいよ～」と言う生徒もいました。



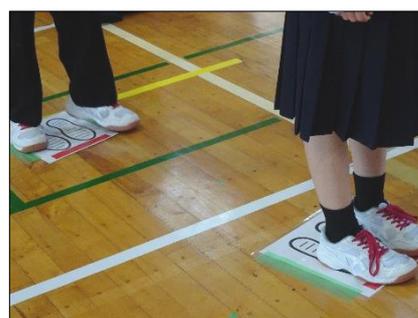
少し痛いけれどほとんどの生徒は気丈に落ちついて



めがねを外してくださいね～



自分で😊あっかんべーして～



足跡マークが効果的です

## 生徒総会資料読み合わせ

来週の生徒総会に向けて、全校学活の時間に資料を読み合わせ、生徒会執行部や各専門委員会の年間活動予定に関する質問や提案事項を考えました。

「自分たちの手で学校生活をより良くしていくための生徒会活動」は、このように全校生徒が関わって行われています。タブレットで資料を読んで、予め質問事項等を考えるところから、もう生徒総会がスタートしています。1年生にとっては初めての経験ですが、来週本番でも活発なやりとりや有意義な提案がなされるよう期待しています。



1年生には生徒会執行部員が特に丁寧にアドバイス

## 全国学力学習状況調査 経年比較調査

全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し今後の教育施策の検証・改善に役立てるため、全国から抽出された学校が行う調査で、今年度の国語調査で仙北中学校が抽出されました。家庭状況と児童生徒の学力等の関係について分析するため「保護者に対する調査」も行われており、3年生保護者の皆様にご協力いただいております。

生徒たちの経年比較調査は、タブレット端末を用いてインターネット回答により行いました。保護者の皆様にもお手数をおかけしますが、どうかご協力をよろしくお願いいたします。



## 情報モラル教室

「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方を理解し、インターネットを通じて起こるトラブルやいじめ等を未然に防止する能力、効果的に対処する能力等を養う」ことをねらいとし、1年生を対象に情報モラル教室を実施しました。

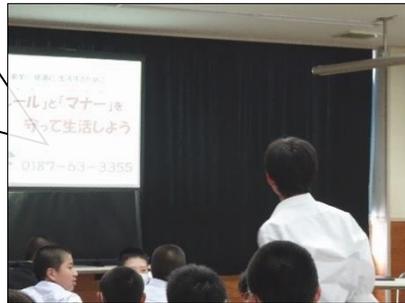
今年度は講師として、大仙警察署生活安全課で主任専門官をしていらっしゃる□□さんにおいでいただきました。□□さんは実際に起こった事件やトラブルを挙げながら、「皆に絶対してほしくないこと」を特に強く伝えてくださったので、多くの生徒たちが自分ごととして真剣に考えることができたのではないかと思います。

準備していただいた保護者向けの資料は生徒が持ち帰りましたので、どうか参考にさせていただき、ご自分のお子様の状況を見極めながら活用していただければと思います。

「皆、自分がどんなネット利用をしているか、とても正直に手を挙げて教えてくれるんだね～」と、笑顔の□□さん。



「ゲームでつながっている相手と、メッセージでやりとりするのは大丈夫ですか？」～生徒からの質問です。



## 生徒たちの感想

僕は情報モラル教室を通してネットの使い方を改めようと思いました。いつも夜おそくまでやっているのが依存症になっているのが心配です。今後使い方に気をつけていきたいです。

ネットは気軽に使えるけど、とても恐ろしく、全てを信用してはいけないんだなあと思いました。自分の将来を壊さないよう、ネットと向き合って生活します。ありがとうございました。

私はゲームをたくさんやり過ぎていると思ったので、ゲームをする時間を自分でちゃんと決めたいと思いました。

自分の身や未来を守るために大事なことを知ることが出来ました。特に僕はネットを使っている時間が長いと思ったので、時間を決め危ないことに遭わないように使っていきます。

## 恩返し

□□ □□

お世話になった学級担任の先生8名、何名かの教科担当の先生、忘れられないエピソードがたくさんありますが、今日は小学校1年生・2年生の時の先生のことを書きたいと思います。

小学校に入学したとき、私はとんでもない悪ガキでした。けんかばかりしていて、自分の名前も書けなくて、毎日のように叱られ、居残り勉強をしていました。2年生が終わるとき、担任の先生は秋田市の旅館に嫁ぐため、先生を辞めることになりました。離任式でのお別れのメッセージは私が読みました。

大学生の時は秋田市に住んでおり、その先生のところを訪れたり、一緒に山に登ったりもしました。大学を卒業してから数年がたったとき、生まれたばかりの息子が幽門狭窄と診断され、手術を受けるために三週間入院をすることになったときの話です。

夜は一人しか付き添うことができなかったのので、私は駐車場に止めた車の中で寝ていました。そんな時、小学校の担任の先生が見舞いに来て「私のところは病院に近いんだから、うちに泊まりなさい」と言ってくれました。その後、私は先生の旅館に泊まり病院に通いました。

息子の手術が終わり退院するときに宿泊料を払おうとすると、「仕事で泊めたんじゃないからお金はいらぬ」と言われました。せめて何かお礼をと思っていたら「私にはお礼はいらぬから、あなたの生徒が困っているときに助けてあげて」と言われました。

困っている人がいたら、その人のためにできることを考え、行動するようになってきました。まだまだ、自分が受けた恩を返すだけの人助けはしていません。